

第2章 景観に関する現況と課題



コロンバス通りの街路樹（ハナミズキ・ツツジ）

2 景観に関する現況と課題

2-1 当市の沿革

当市は面積 27,445ha、人口 121,704 人(平成 22 年国勢調査)の都市で、群馬県の東端に位置し、市の中心は東京から約 90km、県都の前橋市から約 25km の位置にあります。面積の約 7 割が山林で、平地は渡良瀬川の扇状地などに限られていますが、四季の豊かな彩りと都市的空間の共存した特徴ある景観を有しています。

当市は古くから織物のまちとして知られ、織物産業の隆盛は市街地の形成にも反映されています。戦後、織物産業から機械金属系産業などへの転業が進み、全体に対する織物産業の割合は減少していますが、織物産業は依然として当市の中核的産業の一つであり、桐生らしさを代表するものと言えます。

市制の施行は大正 10 年で、昭和に入ってから近隣の村々との合併を行い、その後平成 17 年に新里、黒保根の 2 村と合併し、現在に至ります。

2-2 景観要素の抽出

私たちが普段目にする景色、まち並みなどの景観は、大きく分類すると山・川・森林などに代表される自然的景観、神社仏閣や文化財、地域の祭礼・伝統行事などに代表される歴史的景観、商店街や住宅地、工業地など都市活動に起因する都市的景観など様々なものが混ざり合って私たちの目に映っています。

また、景観は建造物や神社仏閣、樹木などの点的要素、道路や線路、河川などの線的要素、住宅地・工業地・田園風景・公園・緑地などの面的要素、さらには風景、眺望などの広がり・奥行きを有する空間的要素に分けることができます。

そこで本項では、当市における主な景観要素を分類ごとに抽出し、景観に関する現況把握を行います。

(1)自然的景観

山地・丘陵地・平野などの地形や河川や湖などの水系・植生などの自然的条件は、風景の主体やバックグラウンドとしてその姿が地域の景観に影響を及ぼすだけでなく、そこに暮らす人たちの社会経済活動にも強く影響を及ぼし、地域独特の景観を育む基盤となっています。

①山地・丘陵地

市域北西部から北東部の一帯には、赤城山や群馬県と栃木県にまたがる足尾山地がそびえ、急しゅんな地形を刻んでいます。また南東部には標高約 290m の茶臼山を含む、比較的なだらかな地形の八王子丘陵が広がり、南西部の新里町には雷電山が小高い丘のように緩やかに構えています。

②平野

当市の平野部は、市域東部の市街地や相生町・広沢町などでは渡良瀬川とその支流である桐生川や山田川によって形成され、市域西部の新里町南部では赤城山の長く緩やかな裾野が基礎とな

って形成されています。水量豊富な渡良瀬川では、洪水により幾度となく川の軌跡を広げながら、周辺に沖積低地や洪積台地、河岸段丘を形成しており、また桐生川と山田川の扇状地では、緩やかな盆地状となっています。

③河川・湖など

●渡良瀬川

渡良瀬川は足尾山地の皇海山を起点とする延長約108kmの川であり、このうち市内には黒保根町の上流域約5kmと相生町から広沢町にかけての中流域約11kmの計約16kmが流れています。上流では彩り豊かな溪谷美と清らかな水の流れを有し、中流域では水量豊かで河道や中州などが発達した雄大な景観がみられるなど、上流から中・下流にかけて変化に富んだ表情をもっています。広い河川敷には公園等が設置され、都市内の貴重なオープンスペースとして、多くの人々に利用されているほか、春にはアユやイワナなどの放流が行われ、釣りの名所にもなっています。

●桐生川

桐生川は足尾山地の根本山を起点とする延長約58kmの川です。市内を流れるのは源流部から下流域までの約26kmで、アユ・ウグイ・ヤマメ・イワナなどが生息し、川のりが採れる清らかな流れが安らぎある景観を見せています。上流部は桐生川源流林が森林浴の森日本100選及び水源の森百選に選ばれているほか、蛇留淵^{じやるぶち}・千代の滝^{だいこおろし}・大涌下などの優れた溪谷美を有しています。中・下流はオギやヨシの群落も見られ、都市化の進んだ市街地のオープンスペースとして、貴重なものとなっています。

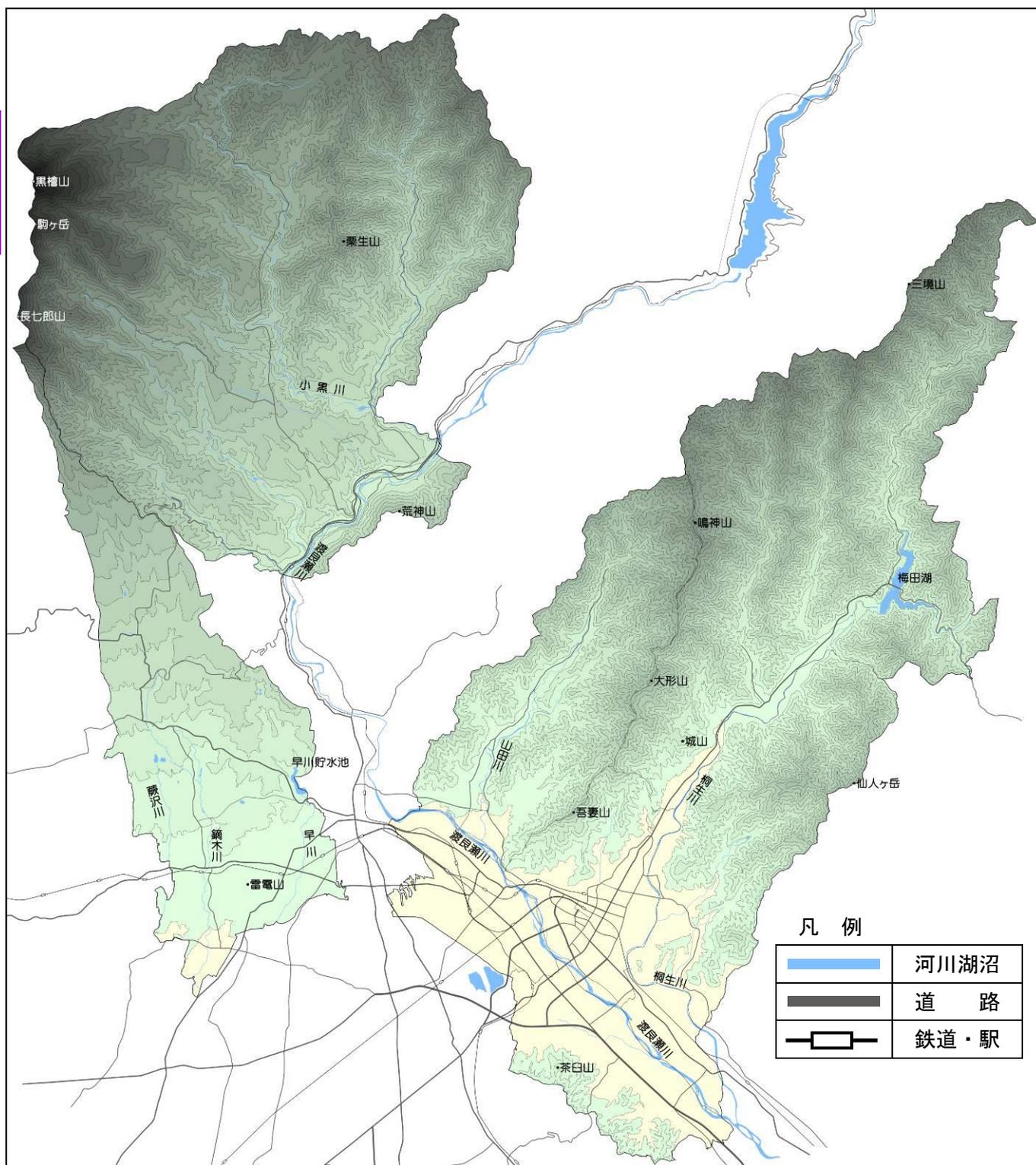
●その他の川

市内には渡良瀬川、桐生川のほか、渡良瀬川の支流として川内町を流れる山田川、新里町を流れる早川、鐺木川、黒保根町を流れる小黒川などがあります。地域の生活や産業など、様々な場面で川は深い関わりを有しており、また身近な水辺風景としても重要な景観要素の一つとなっています。

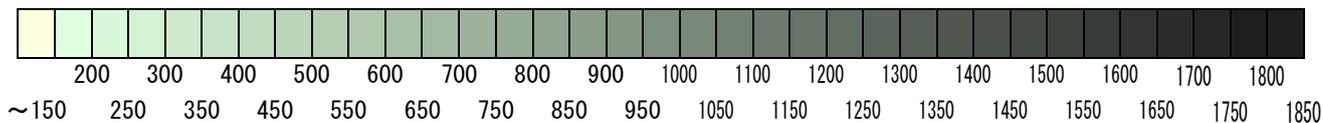
●梅田湖

梅田湖は洪水調整・農業用水・水道用水・発電などを目的に造られた桐生川ダムによる人造湖で、マス・ヤマメ・ワカサギなどの釣りやボート・カヌーなどを楽しめる、市民の憩いの場となっています。

図 2-1 当市の地勢



標高凡例 (単位 : m)



(2)歴史的景観

現在の景観は長い歴史の蓄積のもとに形成されています。その時代ごとの文化や産業、生活などの様子を示す様々なものが現在まで継承されており、歴史的な景観として地域に根付き、地域固有の景観形成に寄与しています。

①神社・仏閣

毎年^{えびす}講でにぎわう西宮神社、桐生新町の町立ての起点とされた天満宮、県指定文化財の栗生神社などの神社や、浄運寺や大雄院などの寺院仏閣のほか、縁日でにぎわう^{ひぎり}日限地蔵尊など、多くの神社仏閣を有しています。これらの神社仏閣は、桐生の歴史を今に伝えています。

また、神社仏閣の周囲を囲む社寺林は、地域の歴史を伝えるだけでなく、都市内の貴重な緑地として、その風致の維持・向上に対して大きな役割を担っています。

②歴史的建造物

●原始

隣接する笠懸町の岩宿遺跡で旧石器時代の石器が発見されたほか、当市においても武井遺跡(新里町武井)などで旧石器時代の出土品が多数発見されています。また千網谷戸遺跡(川内町三丁目)など縄文時代以降の遺跡等も多数見つかり、この地域では古くから人が生活していたと推測されます。

●古代～中世

「続日本紀」や正倉院の供物などから、奈良時代には仁田山地方(現在の川内町)で絹織物の生産が行われていたと伝えられており、江戸時代まではこの地域の絹織物は、仁田山^{つむぎ}紬と呼ばれていました。桓武天皇期に興ったとされる白瀧姫伝説が知られており、白瀧神社(川内町五丁目)は白瀧姫を祭神として祭っています。

飛鳥時代頃の仏教伝来以後、群馬県には白鳳時代頃に伝わったとされていますが、当市においても武井廃寺塔跡(国指定史跡)(新里町武井)や、僧道輪が経典を安置したとされる山上多重塔(国指定重要文化財)(新里町山上)などの遺構から、8世紀頃には仏教文化が伝わっていたことが推測されます。

平安時代中期に編さんされた「延喜式」の神名帳には、「上野之部」12社に美和神社(宮本町二丁目)と賀茂神社(広沢町六丁目)が掲げられています。なお、賀茂神社は市の自然緑地保護地区にも指定され、現在までその良好な景観を伝えています。

鎌倉時代に前桐生氏の当主桐生六郎が築いたとされる梅原館跡(梅田町一丁目)は、その後、後桐生氏や由良氏により治められ、ここを起点に町屋が形成され、城下町になったとされています。これが後の桐生新町の元となったと考えられています。また、後桐生氏が築いたとされる^{ひしゃくやま}柄杓山城は、現在まで掘割や本丸跡など多くの遺構が残されているほか、春には周辺一帯に桜が咲くなど、歴史的遺構だけにとどまらない良好な景観要素となっています。

●近世～近代

安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、徳川氏の代官大久保長安の手代大野八右衛門により、桐生新町が形成されました。現在もその地割や沿道に建ち並ぶ土蔵など、当時の面影を残しています。また桐生新町重要伝統的建造物群保存地区に建ち並ぶ、天満宮や矢野本店・店蔵の歴史的なまち並みや、市内に点在するのこぎり屋根の工場など、明治時代から昭和時代初期にかけて、織物産業の発展とともに形成された建物は、当市の景観の特徴的な要素となっています。

また、^{あかがね}銅街道沿いには足尾銅山の採掘が盛んだった時代に敷設された足尾線（現在のわたらせ渓谷鐵道）があり、国の登録有形文化財に登録された、明治時代後期から大正時代当時の最新技術を用いて建設された橋梁やトンネルなど、日本の近代化に寄与した建造物が沿線に残されています。

このほか、江戸時代の建築物の特徴を現在に伝える彦部家住宅（国指定重要文化財）（広沢町六丁目）や、明治時代以降、西洋文化に影響を受けた桐生明治館（旧群馬県衛生所）（相生町二丁目）や桐生倶楽部会館（仲町二丁目）、絹撚記念館（巴町二丁目）など特徴ある意匠の建物が多数残されています。

(3)都市的景観

私たちの周りの景観は、歴史的に蓄積された基盤があり、そこに産業構造の変化などが要因となり、日々変化を続けています。近代以降の発展と共に形成された、交通網や商工業、大規模建造物など、都市活動に起因する景観要素は今日の景観に大きな影響を及ぼしています。

①交通網

●道路

道路は公共空間と私的空間（建物や敷地など）の接点として、また歩道や並木・車道・沿道建物や広告物など、多様な利用形態が複層的に連なる空間として、景観を形づくる主要因の一つです。

道路には、主として都市間交通や通過交通を担う主要幹線道路、都市内の根幹的交通を主に担う幹線道路、地域住民の生活を担う補助幹線道路があり、その機能ごとに沿道景観も異なる傾向にあります。

市内では主に国道3路線（50号、122号、353号）、主要地方道8路線などが都市間・都市内の主要交通を担っています。交通量の多い道路などでは沿道に店舗等が建ち並び、にぎやかな景観を形成しています。歩道等に植えられたサクラ・ハナミズキなどの街路樹や沿道施設の緑地などは、四季の移り変わりを感じ、また通行者や沿道住民の安らぎの場として、景観に彩りを加えています。また、郊外部を通過する路線では、点在する集落や田畑・山林など懐かしい山村風景が広がっています。

幅員の狭い市道など市民の生活に密着した道路では、住宅をはじめとした建物や境界部の垣根や壁・門扉など、より生活に密着したまち並みが広がっています。また、道路と建物の間の庭や植栽、駐車場などは公空間と私空間の中間領域として、まち並みにリズムと変化を与えており、ゆとりある景観形成に寄与しています。

●鉄道

市内にはJR両毛線、東武鉄道桐生線、上毛電気鉄道、わたらせ渓谷鐵道の4路線があります。桐生駅や新桐生駅、西桐生駅、新里駅などの駅舎は地域のランドマークとしても機能しています。

・JR両毛線

桐生駅前後の区間が高架化され、車窓からは市街地や市を囲む山並みを望むことができます。しかしながら、高架橋が市街地を東西に横切っており、市街地景観を分断する要素となっています。桐生駅の南北駅前広場は、駅周辺にゆとりある空間をもたらしていますが、駅舎は市を代表する玄関口としてのシンボル性が弱く、印象が弱い傾向にあります。

また、渡良瀬川橋梁では、車窓から望む渡良瀬川や上流部の山々の景色のほか、河川敷等から渡良瀬川や山々を背景として車両や橋梁を望む景色が特徴的です。

・東武鉄道桐生線

新桐生駅の駅舎はデザインが印象的で、駅前広場のポスト等も駅舎に合わせたデザインとなっています。駅近くの(主)桐生伊勢崎線には桜並木もあり、四季の彩りが感じられます。

・上毛電気鉄道

西桐生駅の駅舎は国の有形登録文化財となっており、その特徴的なデザインを現在に伝えています。路線は単線で短い駅間をのんびりと走る光景は懐かしさを感じさせるとともに、渡良瀬川橋梁からは素晴らしい景色を望むことが出来ます。

・わたらせ渓谷鐵道

水沼駅は“関東唯一の緑に囲まれた天然温泉付きの駅”として関東の駅百選に選ばれ、住民・観光客に親しまれています。近代日本の草創期から変わらない、単線からなる路線は、相生町から黒保根町にかけて渡良瀬川に沿って通っており、車窓からは四季折々の風光明媚な景色を楽しむことが出来ます。特に秋の紅葉は素晴らしく、多くの観光客が訪れています。

②産業

●商業

市内にはMEGAドン・キホーテ(末広町)・ヤオコーマーケットシティ(相生町一丁目)・カスミ(相生町五丁目)・ベイシア(新里町小林)などの大型店舗のほか、本町通りと末広町通りに商店が建ち並んでいます。大型店舗の規模は、周辺都市に比べて小さい傾向にありますが、建物規模自体は大きいため、景観上の大きな要素となっています。

本町通り、末広町通りの商店街では、洋服店や飲食店などが多く見られます。街路事業により道路部分はゆとりあるスペースが確保されましたが、一方でアーケードの老朽化やシャッターが閉じたままの店舗が増えるなど、景観の阻害要因が増えています。近年では、商店街の一部でアーケードの撤去やLED防犯灯の整備による明るいまち並みの形成に取り組む事例も見られます。

沿道型商業地では、幹線道路沿いに多様な店舗が立地し、広告物なども含めてにぎやかな地域も見られますが、各企業・店舗で建物壁面等や広告物等の色彩・形態・意匠等に統一性が無く、景観が不調和になっている場所も見受けられます。

●工業

織物関係の工場は、桐生川や山田川の周辺地域をはじめ、市内の広い地域に分布しています。また織物工場特有の、のこぎり屋根工場も市内に多く点在しており、当市の織物産業の歴史を表す特徴の一つといえます。

近年では大規模工場の多くは機械金属系工場が占めています。1工場あたりの規模も年々大規模化する傾向が見られ、景観に対する影響は大きくなっているといえます。また、企業・工場の転入・転出は、その規模の大きさから周辺景観が大きく変化してしまい、景観の阻害要因となるケースも見られます。

●農林業

主に農業振興地域となっている新里町・黒保根町にまとまった農地が広がっています。そのほか、桐生地区では広沢町や相生町・川内町・菱町・梅田町などに農地が点在しています。新里町南部では平坦で広い田畑が多く見られるのに対し、新里町の北・中部や黒保根町では尾根や谷など急しゅんな地形的要件もあり、段々畑のような農地が主体となっています。

また、黒保根町や梅田町では林業も盛んで、スギやヒノキなどの針葉樹を主体として植樹、生産されています。

新里町及び黒保根町では、一面に広がる農山村風景が地域の特徴的な景観要素となっています。

③公園・緑地等

公園や緑地は、都市内の貴重なオープンスペースとしての役割や、緑地のネットワークを構成する重要な要素となっています。また、市内には新川公園や南公園をはじめ、桐生が岡公園・吾妻公園・山上城跡公園・桐生市総合運動公園など様々な機能を有する公園やぐんま昆虫の森などがあり、市民の憩いの場として利用されています。

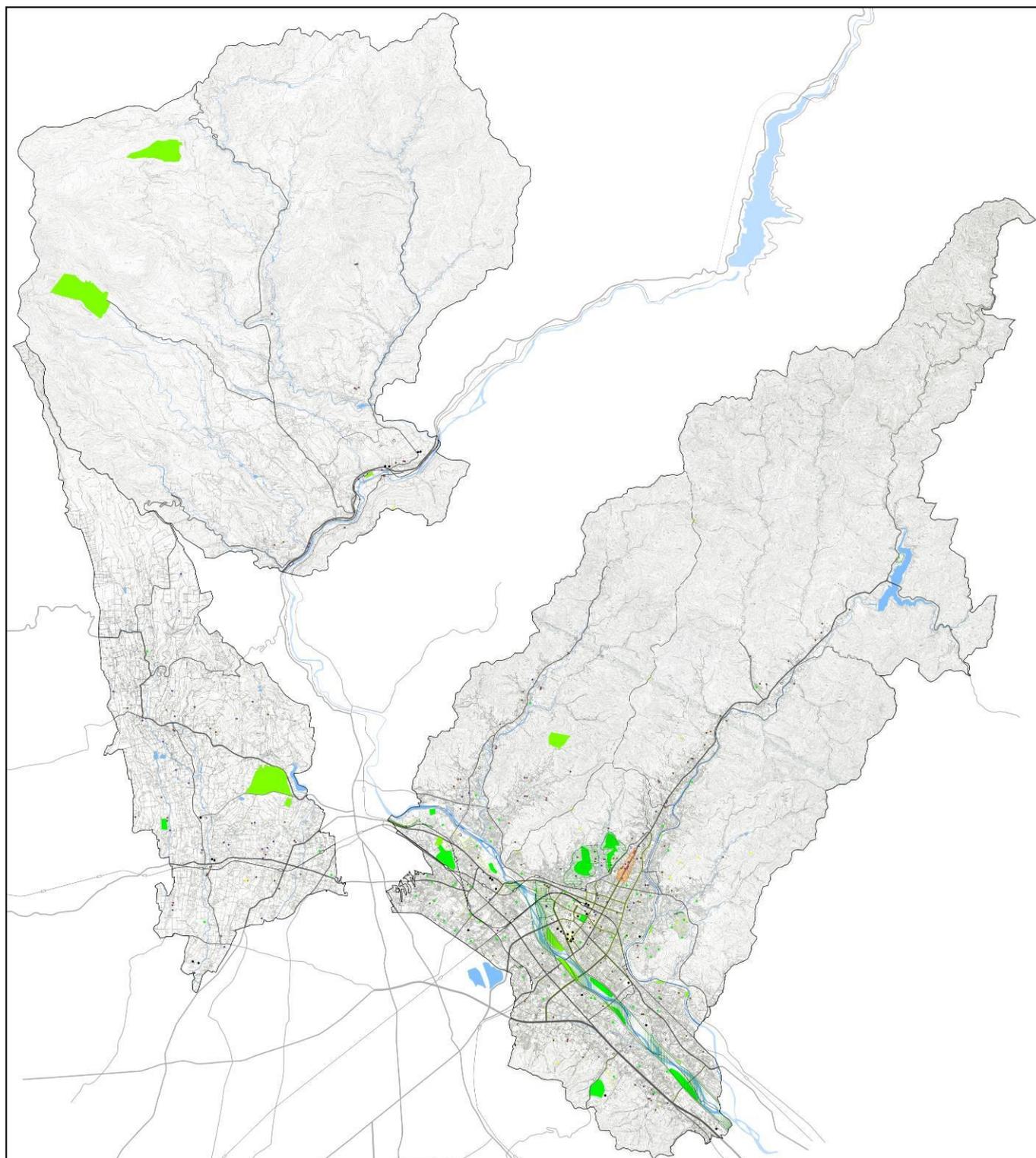
このほか、渡良瀬川河川敷に広がる渡良瀬川河川緑地や、コロンバス通りなどの街路樹、市内に4箇所ある風致地区などの都市内緑地は、無機質になりがちな都市のまち並みに彩りと変化をもたらしています。

④文化・芸能

毎年8月に行われ、多くの来訪者でにぎわう桐生八木節まつりをはじめ、祇園祭やゑびす講、日限地蔵縁日など市内各地で祭礼行事が行われており、地域の人々の暮らしに根付く形で現在も継承されています。

また、山上城跡公園で行われている新里薪能や、黒保根町の涌丸・前田原で行われている獅子舞など地域固有の伝統芸能なども各地域で行われています。

図 2-2 景観資源分布図



凡 例

	河川湖沼		道 路		鉄道・駅
	伝統的建造物群保存地区		風致地区		緑地・緑地保全地区
	都市公園		その他の公園等		街路樹・植樹帯
	官公庁施設		学 校		神社仏閣等
	文化財		主な眺望点		

2-3 景観要素の類型化

(1) 景観要素の分類

前項で抽出した景観要素を、見る側の視点(見え方)ごとに次の4つに分類・類型化します。

- ① 点の景観(目の前の建物・樹木など) ② 線(軸)の景観(線的な奥行きのある景観)
- ③ 面の景観(広がりのある景観)
- ④ 眺望景観(高所などから望み見る景観、低地から遠方を望む景観)

表 2-1 景観要素の分類

	点の景観	線(軸)の景観	面の景観	眺望景観
自然的景観	<ul style="list-style-type: none"> ● 樹木・植生 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相生のマツ ・ 野の大クスノキ ・ サクラソウ自生地 ・ 土橋のおかめサクラ ・ 藤生沢のお角サクラ ・ 群大工学部のサクラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地内の河川 <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡良瀬川中流 ・ 桐生川 ・ 山田川 ● 郊外部の河川 <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡良瀬川上流 ・ 桐生川源流 	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林 ● 湖沼 <ul style="list-style-type: none"> ・ 梅田湖 ● 風致地区 ● 社寺林 	<ul style="list-style-type: none"> ● 山を望む景観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤城山 ・ 吾妻山 ・ 八王子丘陵 ・ 雷電山 ● 川を望む景観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡良瀬川 ・ 桐生川 ● 鉄道からの景観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒保根の山並み
歴史的景観	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的建物 <ul style="list-style-type: none"> ・ 彦部家住宅 ・ 梅原館跡 ・ のこぎり屋根 ・ 桐生明治館 ・ 桐生倶楽部会館 ・ 絹燃記念館 ・ 西桐生駅舎 ● 寺社 ● 文化財 <ul style="list-style-type: none"> ・ 武井廃寺塔跡 ・ 山上多重塔 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本町通りの歴史的まち並み 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的地区 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮本町の洋館群 ・ 柄杓山城跡 ・ 彦部家住宅周辺 ・ 伝統的建造物群保存地区 ● 寺社 <ul style="list-style-type: none"> ・ 天満宮 浄運寺 ・ 西宮神社・美和神社 ・ 賀茂神社・泉龍院 ・ 大雄院 白瀧神社 ・ 栗生神社 	
都市的景観	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前広場 <ul style="list-style-type: none"> ・ 桐生駅 ・ 新桐生駅 ● 公共施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所 ・ 市民文化会館 ● 大規模施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模小売店舗 ・ 工場 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幹線道路 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国県道 ・ 中通り大橋線 ● 生活道路 ● 歩行者専用道路 <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡登緑道 ・ 渡良瀬川堤防道路 ● 街路樹 <ul style="list-style-type: none"> ・ 桜並木 ・ ハナミズキ並木 ・ ツツジ植栽帯 ● 鉄道 <ul style="list-style-type: none"> ・ JR 両毛線 ・ 東武鉄道桐生線 ・ 上毛電気鉄道 ・ わたらせ渓谷鐵道 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地景観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業地景観 ・ 工業地景観 ・ 住宅地景観 ● 公園・緑地等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新川公園 ・ 南公園 ・ 桐生が岡公園 ・ 吾妻公園 ・ 山上城跡公園 ・ 渡良瀬川河川緑地 ・ 街区公園 ・ 県立ぐんま昆虫の森 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市を望む景観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 茶臼山 ・ 水道山展望台 ・ 青葉台住宅団地 ・ 桐生が岡遊園地 ● 鉄道からの景観 <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡良瀬川橋梁
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化・芸能 <ul style="list-style-type: none"> ・ 八木節まつり 祇園祭 糸びす講 日限地藏縁日 だるま市 新里薪能 獅子舞 			